

よくある ご相談と その対応

【事例⑦】身の回りを片付けられない。

NG対応

1、「何で出来ないの！」などと非難する。

- ・どのような手順を踏んで整理していけばいいのか、段取りをイメージするのが苦手なことが多いです。ADHD傾向がある子は、計画を立てたり順序よく実行したりしていくことが苦手です。「片付けをする」という発想そのものが出てこない場合もあります。「なぜ」と非難されても理由はうまく説明できず、本人も教師もお互いにイライラしてしまいます。

2、手伝ってしまうことを習慣にする。

- ・習慣化してしまうと、子どもの依頼心を助長する結果になりかねません。「してもらって当然」という気持ちを抱いたり、片付けられないことを棚に上げて「してくれない〇〇先生が悪い！」と言ったり、悪循環を生んでしまうことにもなります。

GOOD対応

1、持ち物の置き場所を決める。

- ・ロッカーには、入れる物の名前を「文字」や「絵」で貼っておきます。引き出しも仕切りなどを使い、どこに何をしまうか「文字」や「絵」で貼っておきます。更に机上に「登校したら やること」の手順リストを貼っておくと、取り掛かりやすくなります。

2、片付け場所が、一目でわかるようにする。

- ・学級文庫がある場合、本棚に分類別に色分けしたテープを貼っておきます。本にも同じ色のテープを貼っておけば、その本を どの棚に しまったらいいかの目安になります。

3、すぐに しまう習慣をつける。

- ・その子が気にならなければ 机の脇に専用ボックスを取り付け、授業が終わったら机上にある教科書は その専用ボックスにサッと落とすように入れさせることにします。ただし 入れたままにならないように、初めのうちは休み時間に中身の整理を手伝うなどフォローを欠かさないようにします。
- ・授業を終了する時、「次の授業の準備が できた人は、休み時間にします。」と声を掛けるなど、クラス全体で片付ける習慣を意識づけます。